



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 情報・宣伝部
2023年2月9日 No.575

第10回中央委員会を開催



2023春闘をはじめとする

第12回定期大会までの活動方針を確立！

私たち東日本ユニオンは2月8日、東京都「田町交通ビル・大ホール」において「第10回中央委員会」を開催しました。「第11回定期大会」以降の取り組みを総括し、2023春闘をはじめとする向こう半年間の活動方針を満場一致で確認しました。

質疑では、2022年度年末手当の取り組みや組織拡大、各種会社施策に対する取り組みなどにおける成果と課題が語られたほか、新たに結成した東北地本と関東地本の中央委員からは、組織拡大の実現と2023春闘勝利に向けた決意が述べられるなど、活動方針が補強されました。

同時に「第10回中央委員会」で確立した方針のもと、2023春闘要求の実現と組織拡大の実現に向け、東日本ユニオンの団結力をさらに強化し、2023春闘統一行動に挑戦していく意志を打ち固めました。

組合員の利益を守り

労働条件・労働環境を改善するために

東日本ユニオンは挑戦していきます！

委員会宣言 (案)

本日、私たちは東京都「田町交通ビル」において、東日本ユニオン「新型コロナウイルスに対するガイドライン (10)」に基づいた感染防止対策を徹底し、2023 春闘要求と組織拡大の実現を勝ちとる「2023 春闘総決起の場」と位置づけ「第 10 回中央委員会」を開催した。

J R 東日本はグループ経営ビジョン「変革 2027」の実現に向け、驚異的なスピードで様々な施策の提案、実施を進めている。経営側の一方的な会社施策であってはならない。東日本ユニオンは労働組合の立場から急激に変化する労働環境において、今後も職場から点検・検証し、解決に向け経営側と継続して議論を重ねていく。

1 月 31 日に「2023 年 3 月期第 3 四半期決算」が発表された。J R 東日本の業績はコロナ影響からの回復で運輸事業が大幅に増収となったことから、営業収益は 2 期連続の増収。第 3 四半期決算としては 3 期ぶりに黒字転換で増益であった。この黒字化の実現は、コロナ禍であっても感染防止対策を講じ「変革 2027」のスピードアップや社員一人あたりの業務量増に対応し、さらに質的向上に社員一人ひとりが職場で努力した結果である。その成果は還元されるものでなければならない。

現在、相次ぐ物の値上げにより我々の賃金が追いついていない実態が浮き彫りとなっている。安心して生活できる基盤が整っていないのが現実である。2023 春闘では「年功型賃金制度」「終身雇用の確保」と「賃金引上げ」を勝ちとる。そして、私たちは 2021 春闘で赤字業績を理由に削られた「2 係数」を忘れてはならない。黒字業績を背景に、削られた「2 係数」を 2023 春闘でしっかり取り戻そうではないか。

私たち東日本ユニオンは「2022 年度年末手当の取り組み」で、全国各地の J R 労働者の「声を集める」ことに挑戦してきた。この挑戦を通じて「組織拡大の実現」という大きな成果を勝ちとった。また、労働組合に未加入の社員の意識が「『欲しいではなく必要だ』とお互いに確認してきて変わった」という報告もされた。J R 東日本会社の中で労働組合に未加入の社員の割合が「約 8 割」といわれる今日、2021 春闘で削られた「2 係数」を取り戻し、定年退職まで安心して安定した生活を実現するためには、東日本ユニオン組織の強化だけにとどまることなく、東日本ユニオンに結集させていく「組織拡大の実現」が必要不可欠である。各機関で組織拡大にむけた「第一段階の取り組み」と「2022 年度年末手当の取り組み」でつくりだした成果を「2023 春闘の取り組み」につなげ「要求の実現」と「組織拡大の実現」に向けて、全組合員で統一行動を展開する。

東日本ユニオンは連帯するすべての J R 労働者と共に、正々堂々と声をあげて 2023 春闘の要求実現を勝ちとろう！

第 11 回定期大会以降、新たな若い仲間が東日本ユニオンに加わった。さらに挑戦し全組合員で組織拡大を実現しよう！

東日本ユニオンを明るく未来ある組織へと成長させていくことを通じて、安心して退職まで働くことのできる会社をめざし全組合員で決起しよう！

以上、宣言する。

2023 年 2 月 8 日
J R 東日本労働組合
第 10 回中央委員会